

「言語障害児・者を対象とした包括的言語検査に基づいた認知神経心理学的評価基準の開発」研究（川崎医療福祉大学承認番号 20-111）においてご協力いただいた健常児・者の皆様

以下に示す通り、現在、本検査を障害児・者を実施しております。本検査の妥当性を検証し、評価基準を作成する目的で健常児・者の結果と比較いたします。本研究では被験者様の個人情報保護のためにデータは匿名化しており、被験者様にご連絡することはできません。以下の研究を進めることに不都合がございましたらご連絡をお願い申し上げます。

研究名：言語障害児・者を対象とした包括的言語検査に基づいた認知神経心理学的評価基準の開発

研究の目的：地域別に健常者および言語障害児者の検査データを収集し、そのデータに基づき現代に即しかつ地域性に偏りのない、小児から高齢者までの言語障害児者を対象とした包括的な言語検査を作成する。言語障害児者は、小児失語例、小児失読失書例、発達性読み書き障害例、成人や高齢者の失語症例や失読失書例などである。これらを通して言語障害児者の社会参加に貢献する。

研究の方法：検査の実施期間 2024年4月～2026年3月。北海道、九州、沖縄を含む各地域に核になる研究者を配置しデータを収集する。4歳から89歳の失語症者および言語発達障害児を対象とする。予定している対象者は、成人失語症群約100名、発達性読み書き障害のある児童生徒約40名、特異的言語障害のある児童生徒10名。

観察・検査項目：研究課題1) モーラの異同弁別課題、研究課題2) 単語の聴覚的理解、研究課題3) 単文の聴覚的理解力・視覚的理解力（読解力）検査、課題4) 名詞呼称、研究課題5) 動作呼称、研究課題6) 非語復唱、研究課題7) まんがの説明、研究課題8) 音読、研究課題9) 読解、研究課題10) 書称、研究課題11) 書取

各検査項目のうち、識別力の高い項目を最終刺激数とし、他の研究で得た同一課題での健常データの分布と各障害群の分布を比較し、スクリーニングのカットオフ点を設定する。またテストの統計特性として、内部一貫性による信頼性、再検査法による信頼性、基準関連妥当性、診断との一致度などを算出する。

研究に用いる情報の種類

1) 情報の管理：保管場所は研究責任者の居室（びわこリハビリテーション専門職大学2階教員室）。

管理方法：データ保存はパスワードを設定したUSBメモリを使用する。USBメモリと同

意書などの紙媒体の管理は、研究責任者の居室にある鍵付きの保管庫の中に保管する。

2) 共同研究機関や企業等を含む外部機関へ、個人情報等を機関間移動する際の受渡しにおける留意事項（具体的に：年代、性、原因疾患、言語症状については各施設で匿名化し、川崎医療福祉大学へ送付する。共同研究機関との間でのデータの受け渡しにはインターネット上のクラウドサービスである Dropbox を用いる。Dropbox には、研究責任者が許可した共同研究者のみが所属する。Dropbox 上に検査マニュアルや匿名化したデータを保存しデータを共有する。）

研究実施機関：川崎医療福祉大学リハビリテーション学部言語聴覚療法学科、LD/Dyslexia センター、上海大学、工学院大学、杏林大学、早稲田大学、北海道医療大学、目白大学、大阪保健医療大学、武蔵野大学、愛知淑徳大学、熊本保健科学大学、筑波大学、東北大学、日本聴能言語福祉学院、川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター、川崎医科大学総合医療センター、びわこリハビリテーション専門職大学、リハビリテーション天草病院、株式会社ハート&アートダイアリー、医療法人仁和会和田病院、K&K 株式会社龍野デイサービスセンター赤とんぼ、社会医療法人社団三草会クラーク病院、ことばと読み書きの相談室ちゃっと、社会福祉法人旭川荘のぞみ寮、森ノ宮医療大学、川口市医療センター、北海道ことばのリハビリ相談室

お問い合わせ先：種村 純・びわこリハビリテーション専門職大学言語聴覚療法学科
連絡先：〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町 967、0749-46-2311、j-tanemura@aino.ac.jp、
連絡方法：電話、Eメール

研究責任者：びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部言語聴覚療法学科教授 種村純